

- his accession in 1977. [WT 1991]
 (57) ..., and those safeguards which they have
 been long *accustomed to have* interposed
 between them ... [ibid.]

次に、incentive to do の実例をあげる。

- (58) Thus, there is an added incentive to stay
 on the job. [Brown E30 115]
 (59) ...: a challenge and *incentive to maintain* a
 spiritual church life. [LOB D13 62]
 (60) He called fee increases an essential *incentive to better* stewardship of federal lands.
 [LA 1994]
 (61) ... there is little *incentive* for employees to
 do so. [ibid.]

本来 to は前置詞であり、名詞をとるか動詞をとるか厳格な区別が存在すると考えるより、入れ替わりが起こりうる、すなわち融合が起こりうるという考え方が必要と思われる。

4.1.2 仮定法の were

固定化した as it were, if I were you を除いて、仮定法の were がすたれてきているという見解がある (Quirk *et al.* 1985: 158 fn a)。すなわち were と was の融合が起きて was に統一されつつあるということである。この as it were/if I were you すら as it was/if I was you の形ができてつつある。OED2 の検索では、1900年代後半の例に as it was が 2 つ見られる。

- (62) He'd been getting bad grades, he was in the dog-house *as it was*.
 [s. v. dog-house (1963)]

- (63) The sight of Mrs P. complete with black fur hat and garish make-up might have proved irresistible. *As it was*, she was accepted as part of the furniture, at least until the grown-ups came at the end to collect their offspring.

[s. v. furniture (1974)]

OED2 で1900年以降の例で if I were you が19例に対して、if I was you は1949年が初出でそれ以後合計4例ある。もっとも新しいものを1例引用する。

- (64) *If I was you*, I'd see Gracie Hutchinson. ... She'd solve your problem in jig time.

[s. v. jig (1968)]

4.2 意味とそれに伴う統語構造の融合

4.2.1 admiration of/for

admiration は前置詞として of / for をとるが、この2つの前置詞が表す意味は本来的に全く異なるものであるにもかかわらず、単なる異形という認識が生まれている。これは一種の前置詞の融合である。八木・梅咲 (1996) は、admiration of と admiration for が並立しているのではなく、本来全く意味の違うものであり、of は admire O が名詞化して admiration of O として現れる目的語であったことの標識であるのに対して、for は誉める理由を示すものであり、admire O for A の形で現れる。これが名詞化すると admiration of O for A の形になって現れるはずであるが、この形が実際には現れることがなく、表現の重複を避けるために admiration for A となって現れる。

4.2.2 important to/for

important はデータを調べてみると、important to me と important for me という2通りの場合があることがわかる。ところが、「...にとって」の意味を表すのは John was very kind to me. の to と同じく to me であって、for me はもともとは動作主の for me である。

- (65) a. The book is very *important to* you.
 b. It is *important for* you to read the book.
 c. The book is very *important for* you to read.
 d. The book is very *important for* you.

本来は (64a) のように to you であるものが、(65b) の構造があり、また、意味的に (65b) に対応した (65c) がある。そして、(65c) の文主語の the book は不定詞の read と意味的に密接な関係があるから、意味的に冗漫になるので省略されることがある。それが (65d) の形である。(65a) と (65d) が併存するが、(65a) は本来の形であるのに対して (65d) はいわば (65b) → (65c) → (65d) の過程を経てきた派生形である。このように考えると important for と important to の区別が明確になる。

4.2.3 意味的融合

柏野 (1996) によれば、次の (a) - (d) の _____